



あいなん逸品図鑑 ④3



# 「ふぐ提灯」

すすむ  
齊藤 進さん



愛媛CATV  
動画



▲さまざまな色や模様のふぐ提灯

大阪府堺市出身で、福浦に移住してきた16年前からふぐ提灯を作り続けている齊藤進さん。ふぐ提灯を初めて見た人は、もの珍しさから興味を持って触ってくれる。触ったことで福をもらった、元気になったという声をもらうことがある」とうれしそうに話します。

昨年度の「えひめ障がい者アート展」では最優秀賞を受賞しており、持ち前の手先の器用さを生かした精密な作品は、片手で作業をしているとは思えない精度の高さです。仕上がりを意識して尾ヒレの先に脱脂綿を入れたり、網膜を残して内側から義眼を付けたりする作業はとても繊細で、各ヒレも厚紙に貼り付け一枚一枚丁寧に広げています。また、ふぐ提灯独特の丸い形は、ゴム風船を入れて膨らませ、乾燥させる事で作り上げます。

「2週間ほどで乾燥し、仕上げにニスでコーティングをするが、サイズの大きいものは一カ月ほどかかる。丁寧な処理をしないと魚臭さが残ることもあり、きれいな作品には仕上がらない」と注意点を話します。

材料であるふぐは地元漁師さんの協力の下、網に入った物を無償で頂いています。福浦産のふぐ提灯を見ることで、病に伏せている人たちが少しでも元気になれるように、また福が来るようにとの思いを込めて作品を病院へ寄付しています。

作業見学に来た人には、お土産として提灯を渡すサービス精神旺盛な齊藤さん。提灯の中にカラフルな電球を入れてランプのようになり、土台に流木を使用したりするなど、「新しいアイデアを生かしてみんなが喜ぶ物を作り続けることを楽しんでいる」と作品作りへの意欲を話しました。



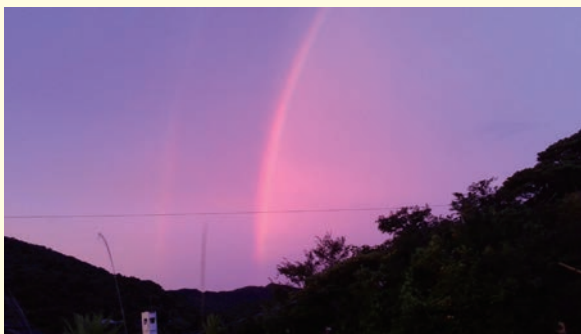
▲色紙に思いを書き留める齊藤さん。作品と共に寄付しています



▲見ている人を癒すふぐ提灯のやわらかな光

## 投稿写真

読者(町民)の皆さまが撮影した写真を掲載します。



掲載する方法は町ホームページからご確認ください。



愛南町  
ホーム  
ページ

写真募集中!

### 「ザ・チャンス」

- ▶撮影者:清水 一明さん(船越)
- ▶撮影日:7月17日(土) ▶撮影場所:船越

夕暮れに入った時、偶然空を見たら虹が出ていました。